

③泊地埋没による航行制限



④長周期波による港内静穏度の乱れ



### ⑤台風時の漂流物

水域への流木滞留による港湾機能停止のリスク

瓦礫等による旅客船埠頭利用への影響



### ⑥コンテナ流出による航路閉塞

事例:東日本大震災時のコンテナ流出による航路閉塞事例(八戸港)



コンテナの海上流出による航路閉塞の危険性



出典:国土交通省 中部地方整備局

## 第5章 上位計画・関連計画

### 港湾の開発、利用及び保全並びに開発保全航路の開発に関する基本方針(国土交通省 2023年3月告示)

#### (1)我が国の産業と国民生活を支える海上輸送網の構築と物流空間の形成

- 資源・エネルギー・食糧の安定的かつ効率的な海上輸送網を形成するための官民連携・企業間連携による大型バルク船の受入環境の整備及び企業間の共同輸送等の促進
- 水素・アンモニア等の受入環境の整備
- 国内複合一貫輸送網の強化
- 災害時等における緊急輸送等に内航フェリー・RORO船を機動的に活用するための取組強化

#### (2)観光立国と社会の持続的発展を支える港湾機能の強化と港湾空間の利活用

- クルーズ船の長期的かつ安定的な寄港を実現するための官民連携によるクルーズ拠点の形成
- 地域の文化・歴史等の特色を活かした美しく魅力的なみなとまちづくり
- クルーズ船、大型船のプレジャーボートやその他の水上交通等の多様な船舶の回遊・寄港要請への対応
- 荷役機械等の低・脱炭素化、船舶への低・脱炭素燃料の供給等をはじめとする「排出源対策」の促進
- 多様な主体の参画等による藻場、干潟等のブルーカーボン生態系の保全・再生・創生や緑地の活用等による「吸収源対策」の促進

#### (3)国民の安全・安心を支える港湾機能・海上輸送機能の確保

- 災害時における緊急物資や、国際海上コンテナをはじめとする幹線貨物の一連の輸送ルート of 構築及び航路等の啓開体制の強化
- 港湾及び港湾背後地での社会経済活動の安全性・継続性の確保のための地震・津波・高潮・暴風等に対する防災・減災対策
- 事故及び災害による被害を最小限にとどめ、社会経済活動を維持するための関係機関や民間企業等と連携したコンビナート等の防災・減災対策

### PORT2030(国土交通省 港湾局 2018年7月公表)

#### グローバルバリューチェーンを支える海上輸送網の構築

- 国際フェリー・RORO航路など多様な速度帯での重層的サービスの提供
  - ・東アジア地域を中心として、貨物ロッドが小さい農林水産物等の輸出促進を強化するため、貨物の共同調達・共同輸送を促進する。
  - ・企業のサプライチェーンマネジメントの高度化に対して柔軟に対応するため、国際フェリー・RORO航路やコンテナシャーシ航路を強化し、多様な速度帯からなる重層的な航路網を形成する。

#### 持続可能で新たな価値を創造する国内物流体系の構築

- 次世代高規格ユニットロードターミナルの形成
  - ・内航フェリー・RORO航路については、災害時等には機動的な輸送手段となることを考慮して、岸壁の標準化等を検討する。また、運行事業者の協力も得フェリーふ頭等の規格統一化を進めるとともに、施設の共同利用や貨物の共同輸送に向けた取組を推進する。
  - ・海陸一貫輸送網を推進・活用し、国際コンテナ戦略港湾への集貨等を促進するため、ふ頭再編による国際コンテナターミナルと内貿ユニットロードターミナルの近接化、港湾と背後の道路等とシームレスな接続、船舶大型化へ対応した岸壁整備・改良の促進、船舶の性能向上に対応した航路の航行環境の確保等を行う。

#### 港湾・物流活動のグリーン化

- 洋上風力発電、輸送機械の低炭素化やブルーカーボン活用等による「カーボンフリーポート」の実現
  - ・地球環境問題に港湾としても責任ある対応をしていくため、洋上風力発電の導入、船舶・荷役機械・トレーラー等の輸送機械の低炭素化や陸上給電設備の導入等の「CO2排出源対策」を行うとともに、鉄鋼スラグ等の産業副産物を有効活用したブルーカーボン生態系(藻場等)の活用等による「CO2吸収源対策」を促進する。これらの取組を推進することにより、世界に先駆けた「カーボンフリーポート」の実現を目指す。

### KYUSHUコネクトポート構想～ヒト・コト・モノを繋ぎ、流れが変わる！～(国土交通省 九州地方整備局 2019年9月策定)

#### バルク貨物の安定的かつ安価な輸入への貢献

- 国際バルク戦略港湾(志布志港)の整備の推進
  - ・飼料原料の安定的かつ安価な購入の実現に向けて、国際バルク戦略港湾である志布志港においてバルクターミナル整備を推進する。
- 船舶の大型化に対応した大水深ターミナルの整備
  - ・畜産農家に安価で安定した飼料穀物を提供するため、パナマックス船が満載で入港可能な大水深岸壁等を整備する。

#### 木材の輸出拡大

- 木材の輸出促進に向けた港湾整備の強化
  - ・原木の輸出量増大に伴い、顕在化している原木蔵置場不足を解消し、さらなる輸出の促進を図る。
- 心頭再編等による新たなニーズへの対応
  - ・老朽化及び利用率が低い港湾施設を集約・再編することにより、今後の輸出拡大に対応したヤードの確保を図る。
- 木材輸出用の大型船に対応した岸壁の整備
  - ・木材関係の販路拡大が進展していく中、受入国側の施設規模をふまえた木材輸出用の岸壁の整備を行い、さらなる輸出の効率化を図る。

#### 交流拠点としての役割の拡大

- にぎわい交流拠点の整備(みなとオアシス等)、交流拠点ネットワークの強化
  - ・海浜・旅客ターミナル・広場等みなとの施設やスペースを活用して、住民参加型の継続的な地域振興に係わる取り組みが行われる高級拠点の整備を支援する。
  - ・他地域の交流拠点との連携促進により新たな人流を創出するとともに、災害発生時には人的・物的相互支援を行う防災ネットワークの強化を行う。

### 2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略(経済産業省他 2021年6月策定)

- 2020年(R2)10月に宣言された「2050年カーボンニュートラル」を受け、地球温暖化へ対応すべく「経済と環境の好循環」を作っていく産業政策となる「グリーン成長戦略」を2021年(R3)6月に策定した。
- カーボンニュートラルを実現する上で、今後成長が期待される産業(14分野)における目標を設定。
- 全ての分野において、技術開発から、社会実装と量産投資によるコスト低減を図り2050年に約290兆円、約1,800万人の経済効果・雇用効果が見込まれている。

#### 2050年に向けて成長が期待される、14の重点分野を選定。

・ 高い目標を掲げ、技術のフェーズに応じて、実行計画を着実に実施し、国際競争力を強化。 ・ 2050年の経済効果は約290兆円、雇用効果は約1,800万人と試算。

<b>洋上風力・太陽光・地熱</b> <ul style="list-style-type: none"><li>2040年、3,000~4,500万kWの案件形成(洋上風力)</li><li>2030年、次世代型で14円/kWhを視野(太陽光) 1</li></ul>	<b>水素・燃料アンモニア</b> <ul style="list-style-type: none"><li>2050年、2,000万トン程度の導入(水素)</li><li>東南アジアの5,000億円市場(燃料アンモニア) 2</li></ul>	<b>次世代熱エネルギー</b> <ul style="list-style-type: none"><li>2050年、既存インフラに合成メタンを90%注入 3</li></ul>	<b>原子力</b> <ul style="list-style-type: none"><li>2030年、高温ガス炉のカーボンフリー水素製造技術を確立 4</li></ul>	<b>自動車・蓄電池</b> <ul style="list-style-type: none"><li>2035年、乗用車の新車販売で電動車100% 5</li></ul>	<b>半導体・情報通信</b> <ul style="list-style-type: none"><li>2040年、半導体・情報通信産業のカーボンニュートラル化 6</li></ul>	<b>船舶</b> <ul style="list-style-type: none"><li>2028年よりも前倒しでゼロエミッション船の商業運航実現 7</li></ul>
<b>物流・人流・土木インフラ</b> <ul style="list-style-type: none"><li>2050年、カーボンニュートラルポートによる港湾や、建設施工等における脱炭素化を実現 8</li></ul>	<b>食料・農林水産業</b> <ul style="list-style-type: none"><li>2050年、農林水産業における化石燃料起源のCO<sub>2</sub>ゼロエミッション化を実現 9</li></ul>	<b>航空機</b> <ul style="list-style-type: none"><li>2030年以降、電池などのコア技術を、段階的に技術搭載 10</li></ul>	<b>カーボンリサイクル・マテリアル</b> <ul style="list-style-type: none"><li>2050年、人工光合成プラを既製品並み(CR)・ゼロカーボンスチールを実現(マテリアル) 11</li></ul>	<b>住宅・建築物・次世代電力マネジメント</b> <ul style="list-style-type: none"><li>2030年、新築住宅・建築物の平均でZEH・ZEB(住宅・建築物) 12</li></ul>	<b>資源循環関連</b> <ul style="list-style-type: none"><li>2030年、バイオマスプラスチックを約200万トン導入 13</li></ul>	<b>ライフスタイル関連</b> <ul style="list-style-type: none"><li>2050年、カーボンニュートラル、かつレジリエントで快適な暮らし 14</li></ul>

#### 政策を総動員し、イノベーションに向けた、企業の前向きな挑戦を全力で後押し。

<b>1 予算</b> <ul style="list-style-type: none"><li>グリーンイノベーション基金(2兆円の基金)</li><li>経営者のコミットを求める仕掛け</li><li>特に重要なプロジェクトに対する重点的投資</li></ul>	<b>2 税制</b> <ul style="list-style-type: none"><li>カーボンニュートラル投資促進税制(最大10%の税額控除・50%の特別償却)</li></ul>	<b>3 金融</b> <ul style="list-style-type: none"><li>多排出産業向け分野別ロードマップ</li><li>TCFD等に基づく開示の質と量の充実</li><li>グリーン国際金融センターの実現</li></ul>	<b>4 規制改革・標準化</b> <ul style="list-style-type: none"><li>新技術に対応する規制改革</li><li>市場形成を見据えた標準化</li><li>成長に資するカーボンプライシング</li></ul>
<b>5 国際連携</b> <ul style="list-style-type: none"><li>日米・日EU間の技術協力</li><li>アジア・エネルギー・トランジション・イニシアティブ</li><li>東京ヒョンド・ゼロ・ウィーク</li></ul>	<b>6 大学における取組の推進等</b> <ul style="list-style-type: none"><li>大学等における人材育成</li><li>カーボンニュートラルに関する分析手法や統計</li></ul>	<b>7 2025年日本国際博覧会</b> <ul style="list-style-type: none"><li>革新的イノベーション技術の実証の場(未来社会の実験場)</li></ul>	<b>8 若手ワーキンググループ</b> <ul style="list-style-type: none"><li>2050年時点での現役世代からの提言</li></ul>

## 1) 鹿児島県の上位計画

### かごしま未来創造ビジョン(令和4年3月改訂、鹿児島県)

- ・温室効果ガス排出削減対策等の推進  
カーボンニュートラルポートの形成
- ・防災・減災対策, 国土強靱化の充実強化  
大規模災害時に災害応急対策のため耐震強化岸壁の整備推進
- ・人やモノの交流を支える交通ネットワークの形成  
国内外との物流拠点として国際バルク戦略港湾の整備推進

### 鹿児島地域防災計画(令和5年1月修正、鹿児島県)

- ・志布志港は、耐震強化岸壁、緑地、臨港道路の整備を計画的に推進

## 2) 志布志市の上位計画

### 第2次志布志市総合振興計画後期基本計画(令和4年3月策定、志布志市)

- ・外貿コンテナ定期航路の整備による、国際コンテナターミナルの利用促進
- ・耐震強化岸壁整備推進及び原木流出防止機能強化による自然災害対策
- ・ポートセミナーを県と合同で開催して、志布志港の利用を促進

### 志布志市都市計画マスタープラン(令和元年11月策定、志布志市)

- ・工業・流通業務施設の積極的誘導と1次産業の流通経路の確保
- ・志布志港周辺・既存の商店街の活性化や駅・港を起点とした観光業の活性化

## 第6章 志布志港の目指すべき方向性(案)

# (1) 志布志港が果たす役割

## 概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貨物量は横ばいで推移</li> <li>・バルク貨物は飼料原料中心</li> <li>・原木輸出量が増加</li> <li>・コンテナ貨物は農産品中心</li> <li>・国際バルク戦略港湾整備中</li> </ul>
----	---

弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原木ヤード面積の不足</li> <li>・港湾施設の老朽化</li> <li>・荒天時の港内静穏度</li> <li>・クルーズ船の寄港が少ない</li> <li>・市民の交流の場が少ない</li> </ul>
----	---

## 取り巻く環境の変化

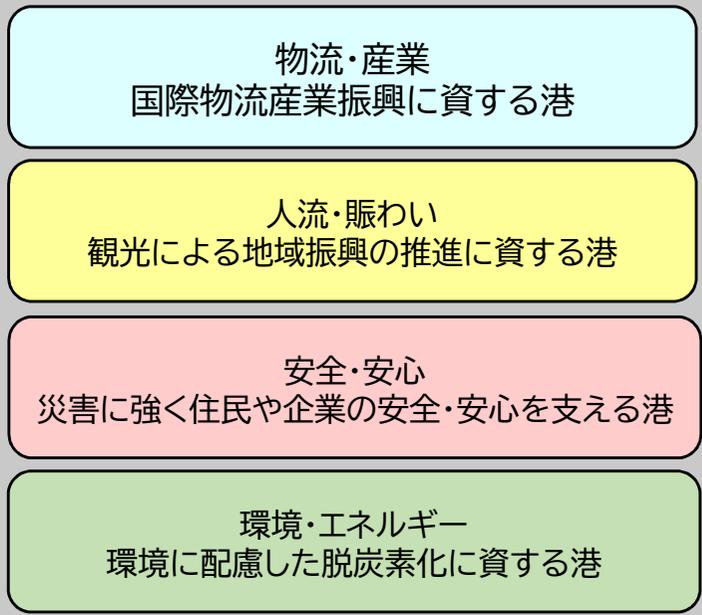
社会経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>・港湾施設の老朽化</li> <li>・脱炭素化への取り組み</li> <li>・農林水産物・食品の輸出促進</li> </ul>
------	--

海上物流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取扱貨物の多様化</li> <li>・トラック物流の労働規制強化</li> <li>・船舶の大型化</li> </ul>
------	--

自然災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・想定される津波・地震の懸念</li> <li>・背後地域への貨物流出</li> <li>・港内静穏度の確保</li> </ul>
------	--

環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再生可能エネルギー等の使用</li> <li>・船舶・車両等の温室効果ガス</li> <li>・港湾施設への太陽光発電導入</li> </ul>
----	--

## 志布志港が果たす役割



## 志布志港の目指す方向性(案)

## 上位計画・関連計画

物流産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バルク貨物需要増大への対応</li> <li>・原木輸出機能強化</li> <li>・大型船への対応</li> </ul>
人流賑わい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域参加型の港空間形成</li> <li>・海とふれあいを深める空間形成</li> <li>・景観保全</li> </ul>
安全安心	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南海トラフ地震、津波対策の推進</li> <li>・老朽化対策の推進</li> <li>・災害時の輸送、物流拠点</li> </ul>
環境エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温室効果ガスの吸収作用の保全・強化</li> <li>・産業の競争力強化に資する脱炭素化</li> </ul>

## 現状の課題

物流産業	<ol style="list-style-type: none"> <li>①原木ヤード面積確保への対応</li> <li>②シャーププール面積確保への対応</li> <li>③冷蔵・冷凍貨物電源設備への対応</li> </ol>
人流賑わい	<ol style="list-style-type: none"> <li>①一般利用空間形成への対応</li> <li>②ターミナル機能集約化への対応</li> <li>③賑わい施設活性化への対応</li> </ol>
安全安心	<ol style="list-style-type: none"> <li>①地震・津波対策施設への対応</li> <li>②老朽化施設への対応</li> <li>③耐震強化岸壁への対応</li> </ol>
環境エネルギー	<ol style="list-style-type: none"> <li>①荷役機械等の脱炭素化への対応</li> <li>③陸上電力供給施設整備への対応</li> </ol>

## (2) 志布志港の目指すべき方向性(案)

### I. 物流・産業

「国際物流産業振興に資する港」

- ①バルク貨物の増大及び船舶の大型化に対応した物流拠点の形成
- ②モーダルシフトの進展に対応したフェリー・RORO輸送拠点となる次世代高規格ユニットロードターミナルの形成
- ③農林水産物・食品輸出等の需要増大に対応したコンテナターミナルの形成、効果的なコンテナターミナルの運用

### II. 人流・賑わい

「観光による地域振興の推進に資する港」

- ①地域住民の新たなニーズに基づき、物流・産業との棲み分けを図った賑わい・水辺空間の形成
- ②地域の活性化に資する「みなと」を核とした新たな観光交流拠点等の形成
- ③クルーズ船やフェリーを利用する観光客向けの賑わい空間・景観の形成

### III. 安全・安心

「災害に強く住民や企業の安全・安心を支える港」

- ①南九州地域の拠点港として大規模災害時における効率的な災害応急対策等の実現
- ②津波災害時における港湾背後地域等への被害低減対策の実現
- ③既存港湾施設の計画的かつ適切な維持管理による港湾機能の保持

### IV. 環境・エネルギー

「環境に配慮した脱炭素化に資する港」

- ①脱炭素化の実現に向けた港湾空間の形成
- ②物流・産業における脱炭素化の実現
- ③再生可能エネルギー供給拠点の形成